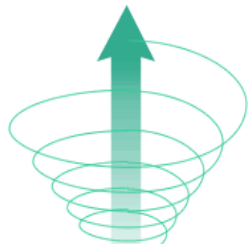
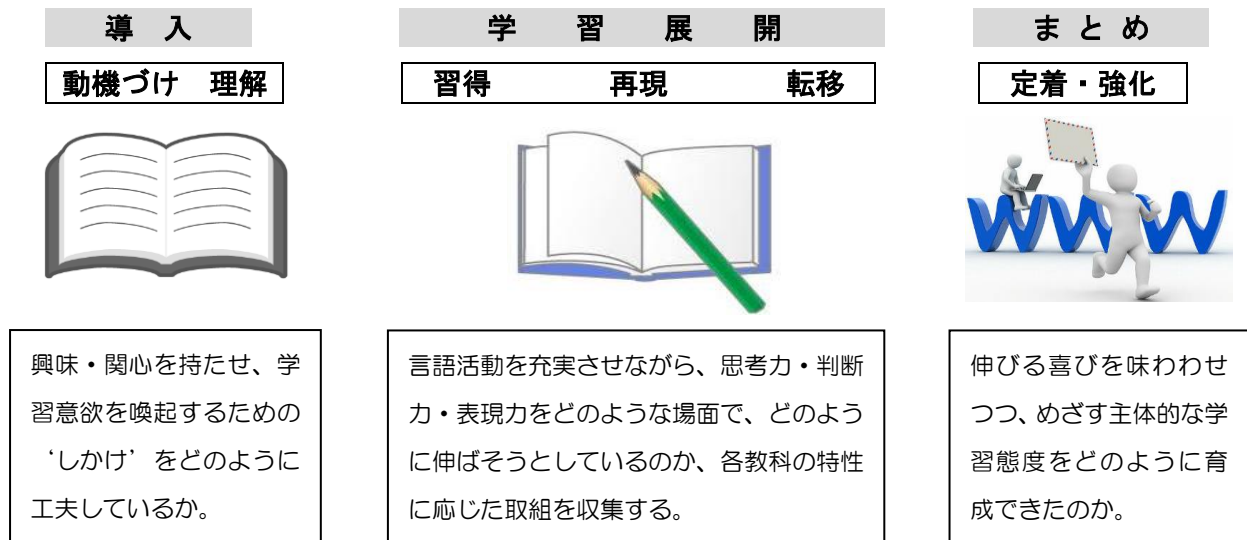


学力向上の動機づけ ～「夢探しプロジェクト」

【吉川市教育委員会】

- 1 学校、学年、教科 中学校、全学年、総合的な学習の時間
- 2 ねらい 「夢を見つけること」を動機づけにして「確かな学力」を向上させる
- 3 取組内容

(1) 学習意欲を高める手だてを授業の中に意図的に組み込む



スパイラル学習

こうした力を育てていく過程（プロセス）は、スパイラルな「総合的な学習」と相通じるところがある。

- ①【課題の設定】体験活動などを通して課題を設定し、課題意識をもつ。
- ②【情報の収集】必要な情報を取り出したり収集したりする。
- ③【整理・分析】収集した情報を整理したり、分析したりして思考する。
- ④【まとめ・表現】気付きや発見、自分の考えなどをまとめ判断し、表現する。

(2) 動機づけのキーワードは「夢さがし」

そこで、「夢や目標」をモチベーションにして生徒一人ひとりを認め、励まし、鍛えていく‘夢探究プログラム’を実施した。これは“主体的な学習態度を育成する”…すなわち生徒の“やる気スイッチをオンにするため（＝動機づけ）”に、教科・領域を横断的・総合的に学習するプログラムである。換言すれば、「基礎的・基本的な知識や技能」に加えて「思考力・判断力・表現力」を培うための計画的な学習過程のことである。



さて、知・徳・体の調和を図りつつ豊かな創造力を発揮する力を育てるためには、教育課程全般にわたってこれを具現化させようという考えの共有化が必要不可欠だ。また、家庭との連携や地域の教育力の活用は大切な要素でもある。

吉川市では、中学2年生全員が3日間の“職場体験学習(3DAYsチャレンジ)”を実施している。このために費やす時間は、実際の体験学習も含めて、延べ30時間以上にも及ぶ。これは「総合学習」の配当時間(70時間)のほぼ半分にも達する。…ならば、これを軸にしない手はないだろう。



- 1 ・自己肯定感をもたせる
- 2 ・自信をつけさせる
- 3 ・目標を持つ意義を伝える
- 4 ・方法を明確にする
- 5 ・知りたい意欲を引き出す

生徒の心に火をつける

キャリア・デザインは、学習への大きな意欲づけにつながる。自分の将来を想定し、その内容やプロセスを具体的に設計すること。例えば、職業適性検査などの自己分析を踏まえて、将来の目標・在学中の目標・今年度の目標を設定し、達成度を評価するなどは「特別活動」とも連動させながら行うと、より効果的である。謂わば‘生徒の心に火をつける’きっかけを設定することだ。これには左のようなステップがある。

また、「彩の国・ふれあい講演会」のように、地域社会の方を講師に迎える「キャリア講演会」なども、総合的な学習の時間を積極的に活用できる。具体的には、次のような実践を行なった。

《A》パッケージ型

プログラムを提供する企業や団体などが、予め目的から授業や学習の内容まで設計し、概ねそのプログラム通りに実施するタイプ

- NTTによる「携帯マナー講座」
- 助産師による「命の授業」(性に関する指導講座)
- TBSのニュースキャスターによる「出前講座」

《B》ボランティア活用型

授業の目的等は学校・教員・コーディネーター等で設定し、知識・情報・機会の提供者としてボランティアが関わるタイプ

- 地域の栄養士による「食育講座～栄養バランスを考えた食生活」
- 介護相談員による「認知症サポーター養成講座」(認知症キャラバンメイト)

《C》協働創造型

主な学習素材やプログラムの基本となる部分は提供する側によって決まっているが、実施する教員と提供側が話し合いながら授業・学習内容を共に協働しながら作り上げていくタイプ

- ハンディキャップをもつボランティア団体と埼玉県立大学の学生らによる「車イス・バスケットボール福祉体験教室」
- 環境ネットワークよしかわの協力による「環境教育(エコロジー)授業」



スキーインストラクターに学ぶ「働く喜び」